



校長室だより 31号

中 島 悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業
目指せ 三種目 日本一 !

【来週の行事】 11月21日(日) 県商・日商簿記検定
22日(月) 職員研修会

- 1 「あいさつということ」 旧職員 黒木 孝俊 10周年記念誌より抜粋
2 出逢ったいい話 『しつけの三か条(森信三)』『致知』2010年4月号より抜粋

「あいさつということ」(原文) 旧職員 黒木 孝俊

「振徳の生徒さんは礼儀正しくていいですね。」という言葉は、振徳の就職関係の先生方が会社訪問をされた時、多くの会社で聞かれた言葉だそうである。会社から求人のため学校に来られた方々の目に、生徒諸君の言動がそう映ったのであろう。

私が振徳に在職したのは創立から7年間であった。新設高校では生徒の就職についての不安は大きい。何とんでも、歴史も伝統もなく全く名が知られていないのだから。しかし、就職関係の職員の努力もさることながら、生徒諸君が礼儀正しく、また勤勉であることはすぐ認められ、高く評価されるようになり不安はたちまちにして解消してしまったのである。

ある校長が全校生徒を前にして新任のあいさつの中で「今朝、私がはじめて出勤して来る途中の道路で、まだ顔も知らない生徒諸君が、お早うございます。というあいさつをしてくれた。実にすがすがしく嬉しい」とのべられたのが強く印象に残っている。私にも同じような記憶がある。私が転勤して振徳を去り、在職中の生徒諸君は卒業してしまった後、振徳で研究会が開かれた時のことである。テスト中で、いくつかの教室に何人かの生徒が残って勉強していたが、廊下を歩いて驚いた。すれちがった生徒は勿論、教室にいる生徒からも「今日は」という声が聞かれたのである。恐らくその日、その会に出席していた他校の先生方も何人かはその声を聞いたことであろう。そして、私と同じように何ともいえないすがすがしい気持ちで帰ったことであろう。最初に書いたことは、今でも伝統として確実に振徳の生徒諸君の中に伝統として受けつがれて生きていると思った。

あいさつをすること、何でもないことのようにであるが、これは礼儀をわきまえることの根本ではないだろうか。このような伝統・校風はこの振徳にいつまでも受けつがれていくことであろう。

私はいま、この振徳に7年間在職した誇りをつくづく感じている次第である。

出逢ったいい話『「しつけの三か条」(森信三先生の言葉より)』

寺田一清 (不尽叢書刊行会代表)さんから伺ったお話をご紹介します。

家庭教育は具体的に何をすればよいのでしょうか。その根本はまず「躾」から始まり、これが人間教育のスタートとなります。

森信三先生は、躾の根本は三つの事柄を徹底させればよい、この三つの躾を真に徹底すれば、それだけで人間としての軌道に乗るとおっしゃっています。

これがつとに有名な「躾の三か条」です。

第一、朝必ず親にあいさつをする子にすること

第二、親に呼ばれたら必ず、

「ハイ」とはっきり返事のできる子にすること

第三、履物を脱いだら必ずそろえ、

席を立ったら必ずイスを入れる子にすること

平凡な、分かり切ったことと思われるかもしれませんが、そこに実に深い意味があるのです。

朝の挨拶によって前向きな姿勢が、「ハイ」という返事で素直さが養われます。コップの口が下向きになっていたのでは水を注ぐことができません。上向きにすることで入っていきます。子供の我を取り、上向きのコップのように前向きで素直な心を養うのが、挨拶と「ハイ」の返事なのです。

そして履物を揃え、イスを入れる習慣を身につけることで、人生でも仕事でも大切な、後始末のしっかりできる子になるのです。

心得ておかなければならないのは、躾はお説教では決して身につかないということです。

森先生は、ではどうすればいいのかという具体的な着手点まで落とし込んで教えてくださいました。

挨拶をする子にするためには、まず母親から我が子に挨拶をすることです。こちらから「おはようございます」と言えば、子供も「おはようございます」と応えます。最初は子供も面食らい、ボソボソとした挨拶しか返ってこないかもしれませんが。それでも母親が笑顔を絶やさず、根気よく続けていくうちに、しっかりとした挨拶が返ってくるようになるのです。「挨拶をしなさい」と何回言っても身につきませんが、こちらから具体的な行動を毎日投げ掛けることで、子供もそれに応じ、それが習慣となるのです。

「ハイ」の返事を躾けるにはどうしたらよいか。それにはまず母親が、ご主人に呼ばれたら必ず「ハイ」とはっきりした返事をするよう努めることです。子供は母親の様子をしっかりと見ています。母親が父親の呼び掛けにいつも素直に応じる姿を見れば、子供も返事の大切さを実感してそれに倣うようになるのです。自ら模範を見せることの大切さは、履物を揃えること、イスを入れることについてもいえます。躾にも適期があり、できればこの三つの躾を、小学校へ入学するまでに身につけさせたいものです。